

一〇二二年一〇月二二日

栗飯を炊いてお仏供と昼ごはん
細波の綺羅に初鴨潜りけり
一筋の川面が分かつ芒原
喬木に色を添えたる葛紅葉
秋声は大山門の柱より
保護犬の細き泣き声秋の暮れ
手の平に乗る盆栽の紅葉かな
あきつ群る通園バスの停留所
立ち入れば溺れさうなる芒波
句の道に定年はなし夜学生
色鳥来白寿の母を祝ふかに
オーケストラ並びにハロウインかぼちやかな
銀杏の実終焉地てふ芭蕉句碑

はく子

ほんこ

なつき

わかば

はく子

愛正

ぽんこ

なつき

素秀

かかし

わかば

なつき

かかし